

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (九州)	良くなる	スーパー（業務担当）	・6～8月末までの3か月間、段階的に閉店セールを計画しており、かなり反響があると予想している。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・中国客船の入港等により、交通機関や一部の小売店に良い影響が出ている。近い将来的には景気が上向きそうだ。
		商店街（代表者）	・季節商材の売上が、前年より増えると見込んでいる。
		商店街（代表者）	・本格的な夏物商戦に入るため、販売量のアップが見込める。プレミアム付商品券の発行に伴うセールも企画していて、客の購買意欲も高まると期待している。
		商店街（代表者）	・プレミアム付商品券の効果が上がることを期待する。各店の努力を呼びかけ、売上につながるようにしていく。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・例年この時期は売上が落ちるが今年は落ちておらず、このままのペースで良くなりそうだ。
		百貨店（営業担当）	・横ばいである。良い材料としては季節商材の動きは前年以上に良い。セールではなく、季節商材を定価で販売して売上を伸ばせる。
		百貨店（営業統括）	・夏にかけてのトレンドは変わらないものの、7月上旬のプレミアム付商品券の販売による特需を期待している。
		百貨店（売場担当）	・インバウンドへの期待がある。プレミアム付商品券が6月に発行され、11月まで使用できるということもあり、プラス要因が若干多い。入店客数が前年比で93～96%と悪い数字が続いていることが、気になっている。売上の前年比は化粧品が115%、宝石、貴金属が119%、雑貨が119%となっている。ただ衣料品は良くない。
		百貨店（企画）	・競合店の動員も落ち着き、徐々に客の戻りが見込まれる。
		スーパー（店長）	・一部ではあるが価格より品質を選択する客が増えている。特に若い主婦、高齢者にその傾向が強い。
		スーパー（店長）	・4月～5月は、確実に前年から改善傾向にある。さらに6月以降にプレミアム付商品券が発売されるので、やや良くなるだろう。
		スーパー（総務担当）	・衣料品は月でバラつきがあるが、食料品や住居用品の売上は前年と一昨年を大幅に上回って推移している。
		コンビニ（エリア担当）	・3か月後も大きな変化はない。株価が大幅に上昇しているが、中小企業への影響は少なく、早期の回復を期待したい。
		コンビニ（販売促進担当）	・夏場から小麦粉の価格が上がって、食パン、菓子パンが値上がりしたが、低価格の食パンは大幅な値上がりはない。売れ筋の120円前後の菓子パンも価格はほぼそのままなので、このまま販売量が落ちることなく伸びていく。
		家電量販店（店員）	・今年の4～5月は、前年比で良い数字である。この流れが続きつつ、販売量も増えて3か月後は今よりも若干良くなる。
		家電量販店（広報・IR担当）	・本格的に夏商戦に入る。賃上げの影響等もあり、ボーナスが支給される6月ごろから徐々に良くなっていく。継続するかは不透明。
		家電量販店（従業員）	・今から暑くなるにつれ、冷房器具の需要が増える。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・これから梅雨、夏場にかけて飲料系、特にアイスコーヒー等の需要が出てくる。店頭でもアイスコーヒーの注文が増えてきた。お中元のギフト、進物も今後増え、売上増加が期待できる。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・3か月前から売上が改善してきている。改善率を見ると、8月ごろには売上がプラスマイナスゼロになりそうだ。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・今夏は前年の冷夏の反動があり、インバウンドも更に獲得できるので、売上は上向く。		
一般レストラン（経営者）	・予約状況も悪くないし、フリーの客も増えている。あとは、単価次第である。		
居酒屋（経営者）	・最近、県外資本の店が増えてきたので、町の活性化に期待している。		
観光型ホテル（スタッフ）	・7月に産業革命遺産が世界遺産として正式に登録されれば、更に宿泊予約が伸びる。		
都市型ホテル（スタッフ）	・7月から全国規模のご当地キャンペーンが開催されるので、例年よりは多くの客が来県するだろう。宿泊部門の予約状況はすでに7月第2週分から順調に埋まってきており、今後はレストラン部門等に波及していくと予測している。		

変わらない	通信会社（企画担当）	・国の施策で、地域振興や観光客誘致の動きが具体化してきた。これからさらに活発になると考えている。
	美容室（店長）	・大型スーパーの建設があり、町が何となく活気づいている。
	住宅販売会社（従業員）	・商談客の省エネルギー住宅への関心が高く、政府の経済対策とも相まって受注が伸びそうな勢いがある。
	商店街（代表者）	・収入源が年金に限られている客は、多少の不動産収入があっても先行きが不安であるため、物を買わない。
	商店街（代表者）	・駅ビルと県立美術館のオープンの好影響が持続し、今の状況が続く。消費税増税から1年が経ち、若干良くなる。
	商店街（代表者）	・7月はボーナスが出る企業もあるが、消費者の財布のひもが固くなっているため、あまり変わらない。
	一般小売店〔青果〕（店長）	・プラスチック材料になるものがない。完熟マンゴーの入荷が始まったが、相場が前年の6～7割になっている。オンシーズンになって入荷量が増えれば、さらに低価格になるだろう。状況の厳しさを物語っている。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・末端の小売店で売れなければ水産物全体の売上は上がらない。魚離れと言われ久しいが、最近は本当にひどい。
	百貨店（総務担当）	・消費税増税の反動も一段落し、食料品、公共料金やガソリン等の値上げがじわじわと起きている。消費者の防衛意識が強まると考える。
	百貨店（営業担当）	・今月はやや良くなってきている。2～3か月はこの状態が続く。
	百貨店（営業担当）	・店外催事やお得意様向け催事への反応は良いが、それ以外の来店客数が伸びない。購買への慎重な姿勢が続いているので、街ぐるみでの取組や親子三世代の来店促進策の実施、固定客の来店促進強化などが必要である。
	百貨店（営業担当）	・円安が続き、原材料等の値上げがダイレクトに響いているのが食品である。販売量そのものがかかり落ちてきている状況で、家計を圧迫するという意味で少し厳しい。逆にインバウンドは伸び続けており、売上の10%近くになっている。
	百貨店（店舗事業計画部）	・婦人衣料が苦戦し、雑貨が健闘する傾向は変わらない見込みである。春夏シーズンで苦戦した婦人衣料は、夏のクリアランスでも苦戦するだろう。その一方で、盛夏物の雑貨は、前年ほどの長梅雨や冷夏でなければ婦人衣料の落ち込みを補う見込みである。
	百貨店（業務担当）	・消費税増税前である一昨年前と比べると、ほぼ横ばいなので、この先も大きく改善は見込めない。客の買物に対する慎重な意識は変わっていない。
	スーパー（店長）	・前年は消費税増税があったが、6月ごろから一昨年並みの状況で安定してきた。今年も前年と同じぐらいで推移するだろう。ただ、年々お中元の商戦時期が早まっており、その分の売上が前倒しになっている。6月以降、その影響が出るのではないかと懸念している。
	スーパー（店長）	・今後も値上げがあるので、なかなか消費は伸びてこないと予測している。
	スーパー（経理担当）	・「とにかく安いもの」と「価値に応じた価格」の二極化が鮮明になっており、高くても価値があるものへ需要や、「安くなくても、必要な分だけを買う」という買い方が確実に増えている。
	コンビニ（エリア担当・店長）	・6月になるとドーナツの販売が始まる予定で、プラス1品が期待できるものの、客単価はそんなに上がらないだろう。コーヒーも新しい種類が発売になるので、期待はしている。
	衣料品専門店（店長）	・2～3か月先も景気の状態の変化はない。
	衣料品専門店（店長）	・依然として客の出足が悪い。
	衣料品専門店（店員）	・売上に占める固定客の割合が上がってきていて、フリー客は増えていない。売上が良くなる兆候はない。
衣料品専門店（取締役）	・とくに思い当たるところがない。ただ8月は、毎年、非常に厳しい時期だ。気候の影響も大きい。	
衣料品専門店（チーフ）	・単価は伸びているが、客数が減少傾向にあるので、売上はさほど変わらない見込みである。	
家電量販店（店員）	・駅ビルと県立美術館ができて、その間の人の流れは非常に増えている。ただ、実際に来客数が増えているのは飲食系の店で、当店のような家電量販店等では逆に減っており、苦戦している。	
家電量販店（総務担当）	・天気の長期予報では雨が多い夏になりそうなので、季節商材が期待薄である。	
乗用車販売店（従業員）	・サービスに関する客の来店はあるが、新車目当ての客が少ない。	

乗用車販売店（総務担当）	・今秋の新型車発売までは厳しい状況が続くと予想する。無駄をなくし経費削減に努め利益を確保していく。
乗用車販売店（代表）	・景気が良くなるような雰囲気はまるでない。
住関連専門店（経営者）	・夏にかけて大きなイベントやキャンペーンがないので、楽観できない。関連業者の話聞いても景気が回復している感じがしない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格は上がりつつあるが、先は不透明だ。夏の賞与について客にたずねたところ、前年よりは期待できるという話が多い。ボーナスでカーケア商品が売れることを期待したい。
その他専門店〔書籍〕（代表）	・物価の値上がりは顕著で、給料の上昇が追いついていない。
その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・景況感は一方向きのようなので期待はしているものの、小売への好影響はまだ先になる。
高級レストラン（専務）	・県内や市内の景気は一向に良くならないが、今年は海外からの客が増えていこう。何か大きな事故がない限りは、前年と同じである。ただそれが今後も続く保証はない。
一般レストラン（スタッフ）	・変わる要素がない。
スナック（経営者）	・前年比がほぼ同じで、今後も変わらない。
都市型ホテル（販売担当）	・8月までは突発的な要素がなく推移するので、前年並みである。
都市型ホテル（スタッフ）	・しばらくは外国人観光客による購買力に支えられ、現在よりも悪くはない。
都市型ホテル（副支配人）	・夏に向けて例年と同じ団体客の予約が入ってきている。加えてインバウンドが販売量と単価を底上げしている。
旅行代理店（従業員）	・夏休みの旅行予約は出足が早く、前年を大きく上回っている。人気施設や路線は早くから押さえられ、すでに満室・満席の日もある。
タクシー運転手	・ガソリンは徐々に値上がりしており、円安の影響で物価も上がっている。天候の影響が大きい時期だが、それ以外の不安材料もかなり多い。
タクシー運転手	・暑くなってくると、県外からの観光客やゴルフ客が少なくなり、タクシー利用が減る。
タクシー運転手	・駅ビルがオープンして1か月あまりになるが、年配者は慣れた場所のほうが落ち着いて買物ができると言っている。商店街に人通りは増えたが、買物客は少なく、あまり期待できない。
通信会社（企画担当）	・大きく変化する要因が見つからない。
通信会社（営業担当）	・良くなる材料がない。
ゴルフ場（従業員）	・6月は前年より予約が入っている。7月は夏のお中元商戦やボーナスの時期を見計らって予約が入るが、少し動きが鈍く、8月ぐらいまでは今の状態が続く。物価の上昇で、娯楽にお金を使えない状況が続くだろう。しばらくは経費を抑えながら運営していく。
競輪場（職員）	・自社及び同業他社の販売額は、横ばいの傾向にある。
競馬場（職員）	・今年に入ってから安定しており、今後、特に変わる要素も見当たらない。
美容室（経営者）	・美容業界の景気回復は秋口になりそうだ。
設計事務所（所長）	・景気は良くはないが、そんなに悪くもない。今年はこの状態ですと推移していきだろう。
設計事務所（代表）	・好転する材料が見つからない。
住宅販売会社（従業員）	・家や土地、建物の動きは好調だが、景気が上向きになったと考えるか、一時的なものであると考えるのが難しい。
住宅販売会社（代表）	・現状として良くなっていく要素がないので、変わらない。
やや悪くなる	
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・株価は上昇しているが景気が回復しているわけではなく、売上増加につながる要素もない。今後は厳しくなる。
百貨店（販売促進担当）	・クリアランスが終わり、本当に必要な物しか購入しない傾向にある。客の財布のひもが固い。
百貨店（経営企画担当）	・季節商材のクリアランスセールやお中元商戦がスタートする。オケージョン商材には期待しているが、消費税増税後の個人消費の低迷は、いまだ続いている印象である。
スーパー（店長）	・まだ消費者の先行き不安は消えたわけではなく、今後も消費に対しては慎重にならざるを得ないようだ。競合店が出店し、価格競争もますます激化することが予想され厳しい状況になる。
コンビニ（店長）	・今が良過ぎる。

		高級レストラン（経営者）	・6月は、4～5月とは比べものにならないくらい予約が入っている。ただし今年の4～5月が悪かったのが、例年の6月と比べると、そこまで良いと言えない状況である。7月は、前年割れ。
		タクシー運転手	・物価が上がリ、客の6割を占める年金生活者の年金受給額が実質減っている傾向にある。あまり期待できない状況である。
		美容室（経営者）	・景気はやや悪くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・労働力確保の厳しさと共に、4月からの介護報酬の大幅なマイナス改定により、撤退する事業者が出てきた。業績は二極化する可能性がある。
	悪くなる	商店街（代表者）	・プレミアム付商品券の事業をするが、初めての試みなので何とも言えない。ただ期待はしたい。
		音楽教室（管理担当）	・先週、教室の運営母体から全国の直営教室を閉めたいという話があった。
企業 動向 関連  (九州)	良くなる やや良くなる	-	-
		農林水産業（経営者）	・今年の夏の鶏肉の供給は、円安による輸入減や国内生産の減少から、不足感が目立つだろう。6月は梅雨の影響で消費の落ち込みが予想されるが、梅雨明け以降は、焼鳥などを中心に居酒屋からの発注が大いに期待できる。また、ビールの消費が増えるので、スーパーから鶏刺しなどの総菜や加工品の発注が期待できる。
		繊維工業（営業担当）	・急には良くなるはならないが、仕事の受注には困らない。国内工場が、仕事を選べるまで来たようだ。
		家具製造業（従業員）	・東京オリンピックやインバウンド関連で、商業施設などの改装や新築が多く、家具の需要も増えている。九州でも徐々にホテルの新築や観光地の改装、新規出店の計画が増えており、売上や受注内容を見るとリーマンショック以前の状況に戻った感がある。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・5月末施行の空家対策特別措置法に基づき、自治体の動きが活発化する見通しである。
		化学工業（総務担当）	・賃金のベースアップが予想される。
		金属製品製造業（事業統括）	・引き合い増による受注増が見込めると考えている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・どの客も前期の在庫はほとんど使い果たしており、これから本格的な今年度のスタートになる。
		電気機械器具製造業（取締役）	・当社も同業他社も投資意欲が増大している。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・得意先の自動車メーカーは、主力車種の販売が好調で、生産設備能力を増強する予定だ。それに伴い、部品の需要も増加傾向にある。
		輸送業（総務担当）	・運賃価格の値上げ改定が進んでいる。荷主が値上げに対して理解を示してくれるのは、景気が上向いているからであろう。
		通信業（経理担当）	・IT投資関連の受注が好調であり、利益率も高水準を維持している。
		金融業（従業員）	・住宅投資が下げ止まりつつあるほか、新型機械の導入など製造業の設備投資が増加傾向にある。また、人手不足感が強まっているため、給与引上げの動きが広がってきている。
		金融業（調査担当）	・ベースアップやボーナス時期を控え、消費環境に不安材料は少ない。
		不動産業（従業員）	・不動産投資が過熱しており、今後も継続する。
		経営コンサルタント	・人事異動も一段落し、これから新年度の事業に取り組む企業が多いので、この流れを期待する。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・地方では非常にまだ厳しい状況が続いている。九州でも福岡はやや明るい話があるが、それでも厳しい状況だ。東京を中心にじわじわと経済状況が良くなっているという話を聞くので、今後底上げされてくると期待している。
		経営コンサルタント（社員）	・生活必需品が売れている。国産品が売れ、価格の安い中国産の品が売れなくなっている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・今後の人材や設備への投資額を増やす取引先が多い。
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	・官公庁の入札案件も徐々に増えており、受注機会が増える。
	変わらない	農林水産業（営業）	・輸入の状況にもよるが、今の景気は続く。
		食料品製造業（経営者）	・まだ端境期ではあるが、秋に向けての注文が見込めている。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・夏場に向かって、新商品はやや伸びるが、レギュラー商品は受注が減っていく。

		鉄鋼業（経営者）	・鉄筋造の建築物件が減り、受注量が低迷している。中でも鉄筋コンクリート造で使われる太径の鉄筋の受注が低迷している。需要側が買い控えをしている様子もなく小口の買付が多い。今後も同じ状況が続くそうである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・客の声等から判断すると、この状況は変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現状維持でいけそうだ。
		建設業（経営者）	・株高で円安なので、しばらくはこの基調が変わらない。
		輸送業（従業員）	・特に景気が良くなるような話はない。客からも貨物がどんどん入るといった話も聞かず、低調な傾向が続いている。
		輸送業（総務）	・あまり変化はない。
		通信業（職員）	・前年に引き続き、受注は順調に推移すると予測しているが、大幅に増える見込みはない。
		金融業（従業員）	・取引先の企業からは、良くなるという声も悪くなるという声も聞かれない。個人客については、まだ消費税増税の影響が根強く残っているようだ。良い方向に向かってはいないという声が多い。
		金融業（営業担当）	・製造業の中小企業は、大半が原材料を輸入品に依存している。円安が進むと、業績に悪影響を及ぼす可能性がある。
		新聞社（広告）（担当者）	・地方創生関連で自治体や団体のPRが活発化するのはと期待はあるが、具体的にはまだ不透明で新聞広告には厳しい状況が続く。
		広告代理店（従業員）	・依然として売上は停滞しており、上を向く気配がない。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・今月も大型店の出店があった。地方の産業に悪い影響を与えているのは否定できない。
		精密機械器具製造業（従業員）	・受注先からの委託製品の生産計画が思わしくなく、かなり生産数が落ちてきている。はっきりとした理由はわからないが、2～3か月先の受注計画は、今のところ良くない。
		その他製造業（産業廃物処理業）	・円安による販売価格の上昇を期待したら、原油の大幅下落により下降した。全く先の読めない状態に困惑している。
		建設業（従業員）	・最近では民間、官庁ともに見積案件が少ない。競争も激しく、取れても採算割れの受注などである。
		金融業（得意先担当）	・建設業は、公共工事並びに民間工事の発注量が減少する中、今後は受注量に見合った経費削減を各社が迫られており、その対応によっては再編とう汰される企業も出てくると見ている。
		広告代理店（従業員）	・5月の新聞折り込み受注額は前年同月比90%の金額となった。前月は前年同月比98%と回復の兆しがみられるかとの感触であったが、空振りに終わった。依然として購買意欲は鈍く、企業も販促費の見直しが行われない。株価・決算とも外部環境は改善しているので今しばらくの辛抱である。
	悪くなる	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・今年度は、市町村からコンサルタントへ発注される業務が、地域創生と公共施設等総合管理、空き家調査のほぼ3つに限られているため、これらを受注できない中小コンサルタントは他に仕事がなく、大変厳しい状況になると推測される。
雇用 関連  (九州)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・雇用確保や新規採用は給与面を押し上げる作用があり、各社の動きが活発になるにつれ、実質給与手取りは上がってきている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・2か月先の広告申込みも例年と比較して、より早いタイミングで受注している。攻めの出稿を進めている企業が多いようだ。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・海外からの観光客の増加は、景気の押し上げになるようだ。特に福岡都市圏では、商業地でも観光客が落とす金額が大きい。夏まではこうした状況が続く。
		職業安定所（職業紹介）	・正社員求人数の前年同月比の増加傾向が、今後も続く。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・中小企業では5～6月をピークに採用選考を実施する企業が多くなると予想され、新卒学生の内々定獲得が活発化する。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・良好に転ずる材料がみえない。
		人材派遣会社（社員）	・既に既存客から、お中元に関する注文がきている。既存客からだけでなく、新規に店舗をオープンする接客業からも問い合わせがある。
		人材派遣会社（営業）	・人員不足は続いているが、地方の景気全体は上がっていない。
		職業安定所（職員）	・求人の増加と、求職者の減少は今後も同じように続くと考えられ、景気はこのまま推移していくものと判断する。

	職業安定所（職員）	・新規求人が増加する傾向はまだ続くとみられる。月間求人有効倍率は1～2月及び3月に1倍を超えた。
	職業安定所（職員）	・業種によるミスマッチの傾向が強い。雇用保険の適用事業所数や被保険者数は増えているが、被保険者数の伸びは新卒者が中心で、中途採用への意欲は鈍化している。新規求人に占める正社員率は、前年比でマイナスである。
	民間職業紹介機関（社員）	・正社員採用の話が続いてあるので、紹介案件は増加しているが以前ほどではなく、派遣案件も落ち着いてきた。
	民間職業紹介機関（支店長）	・今年度の新卒採用、新規採用が一段落した時季でもあり、求人数が伸び悩んでいる。労働者派遣法改正の国会審議の行方が不透明であり、いまひとつはっきりしない状況である。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・求人数の増加傾向は続いている。企業へのヒアリングでも、採用を減らすというマイナス情報はない。
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・賃金を含めた労働条件の見直しが進む中、労働市場の動きについていけない零細企業は、採用がさらに困難になる。労働コストを抑え収益をなんとか確保している企業が採用難に陥ると、労務倒産の可能性もある。
悪くなる	-	-